

サル痘予防に関する Q&A

Q1.海外渡航時に気をつけた方がよいことはありますか

2022年9月時点で、世界で53,000人の感染者が報告されています。そのうち約20,000人が米国からの報告です。次いでヨーロッパ(スペイン、英国、フランス、ドイツ、オランダ等)や南米(ブラジル、ペルー)、カナダからの報告が多く、過去にサル痘が発見されてきた地域とは異なる場所で流行が拡大しています。流行地での性行為は控えましょう。滞在先で肌と肌が触れ合うような密接な接触があった場合には、最終接触から3週間は、体調に変化がないか気を付けましょう。

Q2.ワクチン接種を受けることはできますか

一部の国では、リスクのある人に予防接種を推奨していますが、2022年9月現在、日本では、サル痘に対するワクチン接種は、患者に接する医療者に限定されており、一般にはワクチン接種を希望しても、接種を受けることが出来ません。

Q3.サル痘の症状は？

性器や肛門、口、顔、手、足、胸に、にきびや水疱のように見える発疹が出来ます。痛みや痒みを伴うことがあります。発疹以外に、発熱、リンパ節腫脹、頭痛、喉の痛み、鼻詰まり、咳などが出ることがあります。サル痘の症状は、患者との接触後3週間以内に出現します。体調不良を自覚してから通常1-4日後に発疹が出現します。発疹や水疱が治って、かさぶたから新たな皮膚ができるまで感染力があります。先進国では、免疫不全がない場合には死亡例はなく、1か月程度で自然に治癒します。

Q4.サル痘はどのように感染しますか。

サル痘患者の発疹や水疱、かさぶたに触れる、それらの病変部と接触した物や衣類、寝具に触れる、感染者の唾液や体液に触れる等の行為で感染する可能性があります。

この直接的な接触は、次のような状況で起こる可能性があります。

- サル痘患者とのオーラルセックスを含む性行為
- サル痘患者の性器や肛門に触れる行為。
- サル痘患者との抱擁、マッサージ、キス。
- サル痘患者との長時間の対面接触。
- サル痘患者が使用した寝具、タオル、大人のおもちゃなどに触れる行為。

Q5.性行為に関して普段からこころがけた方がよい事がありますか。

- ・サル痘の症状についてパートナーと話し、口、性器(陰茎、睾丸、外陰部、膣)、肛門を含む、お互いの体全体に、新たな発疹や原因不明の発疹が出来ていないか確認しましょう。
- ・セックスパートナーを限定しましょう。
- ・複数のパートナーとの接触や匿名の性的接触となる、裏部屋、サウナ、セックスクラブ、セックスパーティーは、サル痘の感染が拡大する可能性が高い場所です。そのような出合いや場所を避けるようにしましょう。
- ・直接、肌と肌の接触があるとリスクが高まります。性行為の際に肌の露出を最小限にすることは、リスクの軽減につながります。
- ・キスや唾液の交換をしないようにしましょう。

Q6.コンドームで予防できますか

サル痘は、感染者の粘膜や皮膚にできた病変との接触で感染します。コンドームの使用だけでは、予防することは出来ません。

Q7.妊娠中の感染は、胎児に影響しますか

妊娠中の人サル痘に感染した場合には、胎盤を介して胎児が感染してしまう可能性があります。

Q8.動物からサル痘が感染することはありますか

サル痘ウイルスが蔓延しているアフリカの一部の国では、サル痘に感染した動物に引っ搔かれたり、噛まれたり、感染した動物を食べたり、感染した動物の製品を使用することで、動物からサル痘が感染する可能性があります。日本では、心配ありません。

Q9.原因不明の発疹ができた場合、どうしたらよいですか

原因不明の発疹がある場合は、キスや性行為をしないでください。特に、発疹部分を絶対に触らないようにしてください。タオルや寝具、拘束具、大人のおもちゃ、歯ブラシの共用はしないでください。医療機関を受診する際には、病変部分を服やガーゼで覆い、マスクを着用して受診してください。

参照:

<https://www.cdc.gov/poxvirus/monkeypox/index.html>

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/monkeypox>